

迦楼羅像 国宝

この像は八部衆の一人の迦楼羅（ガルード）を表現している。迦楼羅は蛇を食べる巨大な鳥または鳥のような生き物である。ヒンドゥー教や仏教、ジャイナ教を起源とするガルードはナーガ（蛇または龍）の敵であり、したがってこの迦楼羅像は沙羯羅と対をなしている。

迦楼羅は鎧を身につけた、人間と鳥の特徴を併せ持った戦士の姿で表現されており、大きな嘴と鳥のような目があるが、人間のような耳や髪の毛をしている。鎧や衣服の細かいディテールは長い年月を経ても残っているが、左腕はなくなっている。

他の八部衆の像と同様に、この像も 734 年につくられた。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。